

NIIGATA SEIRYO NEWS

2016/6 June

NO.14



平成 28 年度 新潟青陵大学入学式 入学生宣誓

CONTENTS

01 MESSAGE

- ・学長挨拶
理事長・新潟青陵大学短期大学部学長 関 昭一
新潟青陵大学学長 諫山 正

02 CLOSE-UP

- ・平成27年度卒業式を挙行了しました
- ・平成28年度入学式を挙行了しました

03 VOICES

- ・社会に開かれた大学・短大として、地方創生・活性化に貢献
- ・本学青年赤十字奉仕団が中心となり
平成28年熊本地震街頭募金を行いました

04 VOICES

- ・第16回戴帽式を挙行了しました

05 TOPICS

- ・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
平成27年度卒業生就職状況のご報告

06 REPORT

- ・平成28年度新任教員と平成27年度退職教員のご紹介
- ・大学・短期大学部・大学院 平成28年度新入生数のご報告

07 INFORMATION

- ・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部からのお知らせ

短



理事長・
新潟青陵大学短期大学部学長
関 昭一

ロボット(人工知能)が進歩するとヒトの能力を追い越してヒトに敵対する存在になってしまう?今年の3月に最新の「ディープラーニング」(深層学習)機能を装備した人工知能の「アルファ碁」が世界最強のプロ棋士を破ったことで大きな話題になりました。ロボットは計算の速さと記憶力では優れていても、囲碁のように複雑な戦略的思考が必要なゲームでは当分の間はヒトに勝てないと思われていたのです。「ディープラーニング」は過去の経験を記憶に積み重ねて、その中から最適の行動を発見出来ることで、現在の職業人の50%以上にも当たる中間管理職を含む事務職員や接客員がロボットに置き換わる可能性があると言われます。置き換わられた人々が社会に歓迎されるより、創造性の高い職業に就くことで人類社会は一段と進歩する筈ですが、その職業はどんなものか?現在のところ誰にも判っていません。判っているのは其処での活躍に必要なのは、いわゆる「明示知」ではなくて「暗黙知」または「実践知」、そして「リーダーシップ」なのですが、それは教科の「知識」として学べるものではありません。先生方が教育に賭ける「熱意」または「志し」、学生を惹きつける「リーダーシップ」こそが皆さんの体得すべき「実践知」の大きな要素なのです。皆さんは教科だけでなく部活やボランティア等々の社会的活動でこれらの資質、能力を身に付けることが出来ます。

学生の皆さんが卒業後に遅くとも5年か10年後には、皆さんの職場にロボットがいることが珍しくなくなるでしょう。学校ではその時に皆さんが当惑しないで済むように、ロボットのペッパー君を2体購入しました。皆さんにはペッパー君と慣れ親しみ、ロボットがどの様に使い勝手が良いかを試して貰いたいと願います。

大



新潟青陵大学学長
諫山 正

本学が地域貢献センターを立ち上げたのは昨年4月ですが、そのなかでの新しい動きはCOC+への参加と地方自治体との包括連携協定の締結でしょう。なかでも特筆すべきは、本学が参加した新潟都市圏大学連合と、新潟市とが包括連携協定を結んだことです。まだまだ市民に見える形での実績は上がっていませんが、おそらくこのような同じ都市圏にある中小規模大学が単に競争するばかりでなく、協力して連合を進めている地域は全国で例が少ないと評価されています。大学の研究教育に対する地域社会の期待に応えるためには、近隣の大学間相互の結びつきを強め、大学連合と地方自治体との協働が必要とされる時代となったからです。

新潟市は北東アジア世界とつながる空と海の拠点であり、そのゲートウェイ機能は首都圏の代替機能を有し、学術・文化・産業の情報発信基地としての可能性は十分あるにもかかわらず、学術文化都市としての魅力は仙台や金沢に遅れを取っているといわれてきました。新潟都市圏における学術文化や産業技術の振興、専門的人材供給は地域の大学の役目でもあります。コミュニティビジネスと中小企業とのインターンシップ、地域包括ケアシステムの構築など多くのプログラムが企画されています。

また大学連合による単位互換制度や共通科目の作成は学生にとってはカリキュラムの豊富化となり、地域におけるヴァーチャルな新しいタイプの総合大学の萌芽ともなるでしょう。また社会人の学び直しの機会を豊富に提供するためにICT等を活用し、それぞれ個性的な生涯教育を相互補完的に幅広く提供することができます。

今後の新潟都市圏大学連合にご期待ください。

大 短 院

平成27年度卒業式を挙行了しました



平成28年3月18日(金)、新潟市民芸術文化会館コンサートホールを会場として、平成27年度卒業式が挙行されました。

新潟青陵大学217人、新潟青陵大学大学院9人、新潟青陵大学短期大学部352人に卒業証書・学位記が授与されました。

式では、学長から卒業生・修了生へはなむけの言葉が贈られ、これを受けて、卒業生および修了生の代表が答辞を述べました。

さらに今年度は、大学・大学院の式に本学と交流協定を結んでいる韓国・コットンネ大学の総長を来賓としてお迎えし、祝辞を頂戴しました。

このたび卒業を迎えられた皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、今後のさらなる活躍を願っております。



平成 28 年度入学式を挙行了しました



平成28年4月2日(土)、本学体育館を会場として、平成28年度入学式が挙行され、新潟青陵大学233人(看護学部91人、福祉心理学部130人、看護福祉心理学部編入学12人)、新潟青陵大学大学院14人(看護学研究科5人、臨床心理学研究科9人)、新潟青陵大学短期大学部355人(人間総合学科225人、幼児教育学科130人)の新入生を迎えました。

晴天に恵まれ、春のあたたかい日差しのもと、多くの保護者の方々にご来場いただきました。

式では、学長より入学生へ激励とお祝いの言葉が贈られ、これを受けて、入学生の代表が入学生宣誓を行いました。

本学の学生として無限の可能性に挑戦し、活躍されることを期待しています。



大 短

**社会に開かれた大学・短大として、
地方創生・活性化に貢献**



平成27年3月、新潟青陵大学・同短期大学部は東蒲原郡阿賀町と包括連携協定を締結し、地方創生・活性化に寄与するべく連携・協力し、教育・研究・社会貢献活動を行っています。

昨年度は、阿賀町および新潟市古町地区において、問題解決能力やコミュニケーション力を備えたリーダーシップのある人材の育成をめざし「地域ミッションインターンシップI」を実施しました。活動のテーマを「高齢・過疎化が進む地域商店街の活性化」とし、学生が実際に商店街を歩き、店舗スタッフとの会話の中から課題を抽出し、課題解決に向けたアクションを検討。阿賀町役場の方々に学生の立場で実施できる改善策のプレゼンテーションを行いました。

また、看護学科2年生が公衆衛生看護の臨地演習で阿賀町を訪れました。地区を歩いたり住民の方々に話を伺ったりした結果から、健康に影響しそうな地域の特性を分析し、「地域の魅力」を踏まえた対応を検討しました。阿賀町での報告会の際には地区の方々から助言をいただくなど貴重な経験を積みました。



今後、学生と地域住民の方が積極的に触れ合うことのできるアクティブ・ラーニングの実践の場として、さらに看護・福祉の実習拠点や地域住民の生涯学習拠点として、阿賀町にサテライトキャンパスを設置する予定です。

次号以降でも阿賀町での活動の様子をお伝えしていきます。どうぞご期待ください。

大 短

**本学青年赤十字奉仕団が中心となり
平成28年熊本地震街頭募金を行いました**



平成28年5月20日(金)～5月27日(金)および6月1日(水)～6月3日(金)の計9日間、新潟駅前にて新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部青年赤十字奉仕団(ボランティアセンター所管団体)を中心に「平成28年熊本地震街頭募金」を行いました。

4月14日(木)に発生した熊本地震。翌日より学内にて青年赤十字奉仕団を中心に義援金募金活動を行いました。相次ぐ余震や避難所で生活する方々の力になりたいと、学外でも街頭募金を行うことにしました。

青年赤十字奉仕団のみならず、約15名の学生が名乗り出てくれ、全8回の街頭募金に総勢30名程の学生が携わり、被災地の皆様にエールと義援金の呼びかけを行いました。通り過ぎた後に戻って募金して下さる方や温かい支援の言葉をくださる方など、多くの方にご協力を頂きました。

集まった義援金は10万円を超え、人を助けるのは人の想いや行動なのだ、あらためて人の温かさを感じることができた活動となりました。

集まった義援金は全額日本赤十字社新潟県支部を通して被災された皆様のために寄付させていただきます。多くのご協力とご支援を頂きましてありがとうございました。



大

第16回戴帽式を挙行了しました



平成28年5月14日(土)、穏やかな天候の中、本学体育館において第16回戴帽式が挙行されました。戴帽式は、看護学科2年生が本格的な実習に向かう前の時期に看護への決意を新たにすることを目的にしています。92名の2年生は来賓の方々、ご家族の方々に見守られる中、ナースキャップを戴き、「誓いの言葉」を宣誓しました。

本学の戴帽式は、学生主体の実行委員会により企画・実施しています。昨年の9月に実行委員会を立ち上げ、委員長をはじめ16名の委員が中心となり、看護学科全員で協議しながら準備を進めてきました。先輩が残してくれた資料を参考にしながらも、自分達らしい戴帽式に、学生自身はもちろん、参列いただく方々の心に残るような戴帽式にしたいという想いで検討を重ねました。実行委員会では、現在の臨床では使用していないナースキャップを戴帽するかしないかの検討から始め、セクション毎の動きなど話し合いながら戴帽式を作り上げました。4月に入ってからは、斉唱する誓いの言葉、会場での動き方などの全体練習も重ねて当日を迎えました。このような経過を通じて、クラスの協力関係も培われていったようです。

当日は、緊張しながらも、積み重ねてきた準備、練習の成果が表れ、きりっと締まった戴帽式になりました。学生一人ひとりが、看護の道に向かう決意と希望をより強いものにできたようです。戴帽式を終えた後の記念撮影の時間では、その成果を喜び合う姿、またナースキャップを戴いた我が子を微笑ましく見つめられるご家族の方々の姿が印象的でした。

戴帽式を終えて-学生実行委員から

平成28年5月14日に、第16回新潟青陵大学戴帽式が挙行されました。

この日のために、実行委員を中心として、看護学科全員で協議しながら準備を進めてきました。入場の仕方をはじめ、戴帽、キャンセルサービスの動き、誓いの言葉、コサージュ、BGMまで、すべて自分たちで考え、話し合いながら、一から作り上げました。

当日は緊張しましたがすべて順調に進み、無事、戴帽式を終えることができました。保護者の方や先生方にもお褒めのことをいただけてよかったです。

戴帽式を終えて、看護職に就く決意を新たにすることができました。今後壁にぶつかるといっても、仲間とともに乗り越えていこうと思います。

実行委員、看護学科のみんな、先生方や職員のみなさん、本当にありがとうございました！

(戴帽式実行委員長／看護学科2年 上村 優里華)



大 短

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
平成 27 年度卒業生就職状況のご報告

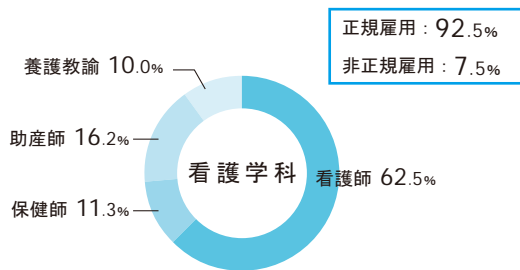
新潟青陵大学看護福祉心理学部 学科別就職率・内訳
※改組にともない、旧学部・学科・コース名での表記となります。

看護学科	100%
福祉心理学科	98.4%

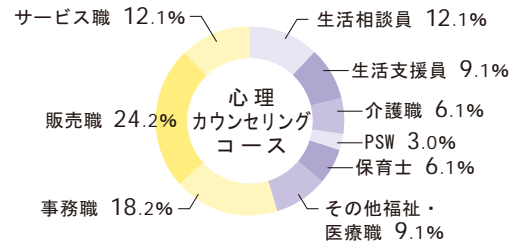
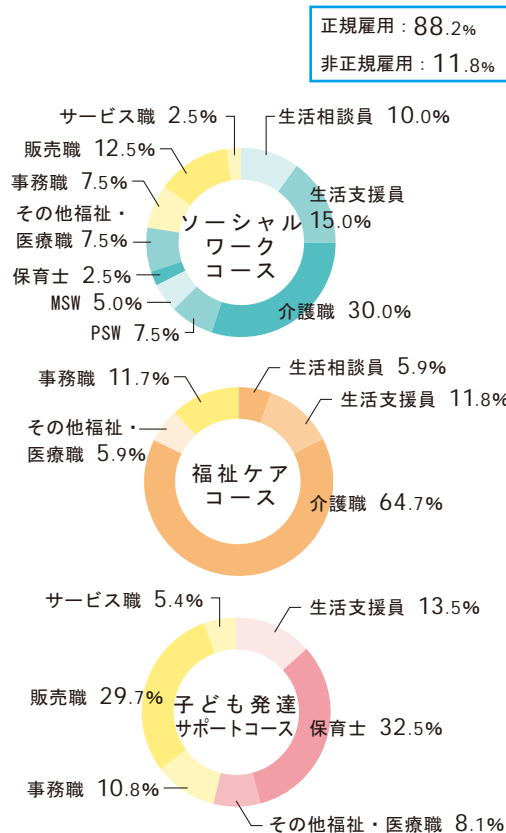
(※就職率=就職者/就職希望者)

学科	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数
看護学科	81人	80人	80人	0人
福祉心理学科	138人	129人	127人	7人

・看護学科卒業生職種別就職状況



・福祉心理学科卒業生職種別就職状況



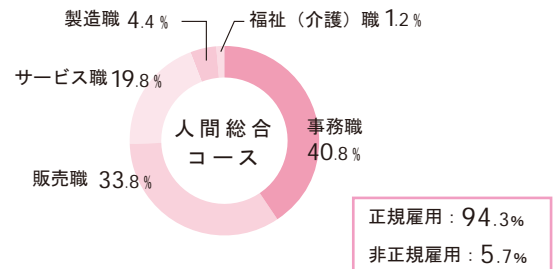
新潟青陵大学短期大学部 学科別就職率・内訳

人間総合学科人間総合コース	98.1%
人間総合学科介護福祉コース	100%
幼児教育学科	100%

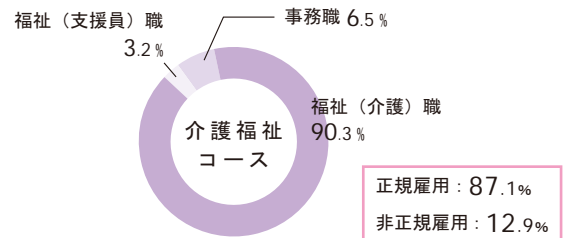
(※就職率=就職者/就職希望者)

学科	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数
人間総合学科人間総合コース	188人	160人	157人	11人
人間総合学科介護福祉コース	36人	31人	31人	2人
幼児教育学科	128人	127人	127人	1人

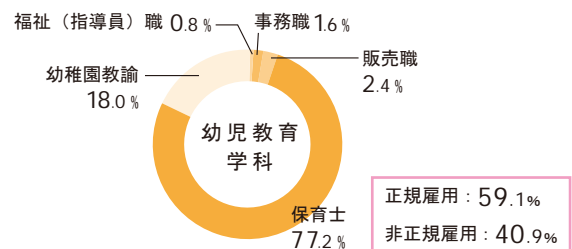
・人間総合学科人間総合コース卒業生職種別就職状況



・人間総合学科介護福祉コース卒業生職種別就職状況



・幼児教育学科卒業生職種別就職状況



大 短 院

 平成28年度新任教員と
 平成27年度退職教員のご紹介

【平成28年度の新任教員】

〈大学 福祉心理学部〉



齊藤 勇紀(助教)

保育所や早期療育機関で子どもの発達支援を行ってきました。その後、保育者養成に携わっております。専門は障害児保育です。様々な個性や特性のある子どもたちが共に育ちあう環境を学生と共に追求しています。よろしくお願いたします。



里見 佳香(助教)

専門は法学で、日本国憲法、現代政治のしくみ、法律学、社会保障論などを担当します。法を知ることは日本を知ること、そして社会を知ることです。一緒にこの国のしくみとあり方について考えていきましょう。

〈短期大学部 人間総合学科〉



岩森 三千代(助教)

調理理論、子どもの食と栄養、調理学実習等の科目を担当いたします。昨年までは非常勤として勤務させていただいておりました。学生さんと共に学び経験する中で、私自身も教員として成長していけたらと思っています。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。



高橋 司(助教)

簿記、金融等の科目を担当させていただきます。以前は、税理士として会計や税務、労務分野に携わって参りました。これからは、学生と共に日々研鑽し、少しでも会計等の魅力を伝える事が出来るよう邁進する所存です。

〈短期大学部 幼児教育学科〉



宮城 正作(助教)

私の専門は幼児造形教育です。本学では、主に「図画工作Ⅰ・Ⅱ」や「表現(造形)指導法Ⅰ」などの授業を担当します。楽しく学びながらも、いつのまにか知識や技術が身につくような授業を目指しています。

【平成27年度で退職した教員】

大学院看護学研究科 / 橘 玲子(教授)

大学院看護学研究科・大学看護学科 / 尾崎 フサ子(教授)

短大人間総合学科 / 玉木 民子(准教授)

紺野 卓(准教授)

短大幼児教育学科 / 宮越 敏夫(准教授)

大 短 院

 大学・短期大学部・大学院
 平成28年度新入生数のご報告

【新潟青陵大学】

看護学部 男子5人、女子86人 計91人

福祉心理学部 男子22人、女子108人 計130人

【新潟青陵大学大学院】

看護学研究科 男子0人、女子5人 計5人

臨床心理学研究科 男子1人、女子8人 計9人

【新潟青陵大学短期大学部】

人間総合学科 男子10人、女子215人 計225人

幼児教育学科 男子2人、女子128人 計130人

(平成28年5月1日現在)



大学オープンキャンパス

＜開催日時＞

平成28年7月24日(日)、8月6日(土)、8月7日(日)

いずれも13:00～16:30 要予約

＜プログラム＞

学内見学ツアー、学部・学科・
コース紹介、入試説明、模擬授業、
体験コーナー、個別相談、青陵カ
フェ(フリートークコーナー) など



短大オープンキャンパス

＜開催日時＞

平成28年6月19日(日)、7月10日(日)、7月30日(土)

いずれも10:30～14:30 要予約

＜プログラム＞

学科・コース説明、入試説明、お楽
しみイベント、キャンパス自由見
学、分野・コース紹介(人間総合学
科)、授業内容紹介・実技体験、ピアノ・
歌の入試対策(幼児教育学科)など



大学院臨床心理学研究科説明会

＜開催日時＞

平成28年7月2日(土)

14:00～17:00 予約不要

＜プログラム＞

教育内容紹介、ミニシンポジウム、
入試実施概要説明、個別相談、施
設見学ツアー、院生・修了生との
フリートーク、研究活動紹介 など



大学院看護学研究科説明会

＜開催日時＞

平成28年7月24日(日)

10:20～12:30 予約不要

＜プログラム＞

教育課程紹介、入試実施概要
説明、個別相談、施設見学、大学
院生とのフリートーク、テキスト
紹介 など



熊本地震被災者に係る義捐金を贈呈しました

このたびの「熊本地震」で被災された方への義捐金を学園内
教職員から募っておりましたが、合計1,316,700円となりました。

5月30日(月)、日本赤十字社新潟県支部にて、本学園栗林克
礼事務局長(写真左)より江口孝雄事務局長(写真右)に目録が
贈呈されました。

この義捐金は、日本赤十字社を通して被災された皆様のも
とへ届けていただくこととなります。

被災された方々に心よ
りお見舞い申し上げると
ともに、現在も救援を求め
ておられる皆さまの健康
と安全、被災地の一日も
早い復興をお祈りいたし
ます。



編集後記 NIIGATA SEIRYO NEWS 2016/6 June No.14

新潟青陵大学及び同短期大学部は、今年度も定員を超える学生の皆様から入学していただき、新たな年度のスタートを切りました。5月には、看護の日(ナイチンゲールの誕生日)にあわせて戴帽式が実施され、本格的な実習に入る2年生が、看護職としての決意を新たにしました。入学式、戴帽式とも、多くの学生のご家族にお越しいただき、本学への強い期待を改めて感じ、身の引き締まる思いでした。

本学では「ケアのこころ(自らケアができ、ケアされる側の気持ちを理解する)」を持ち、主体的に行動できる人材の育成を目指し、その目的を達成するために様々な取り組みを行ってまいります。引き続きご指導・ご協力をお願い申し上げます。

(事務局長 栗林 克礼)

 **新潟青陵大学**
新潟青陵大学短期大学部

〒951-8121 新潟市中央区水道町1丁目5939番地
Tel : 025-266-0127(代) Fax : 025-267-0053
URL : <http://www.n-seiryu.ac.jp>

[オープンキャンパス・入学試験に関するお問い合わせ]
学生募集・入学試験課
Tel : 025-368-7411 Fax : 025-266-9642
E-mail : pr4@n-seiryu.ac.jp